

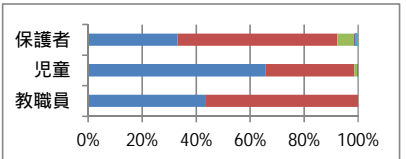
平成29年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

豊かな心をはぐくむ教育の推進

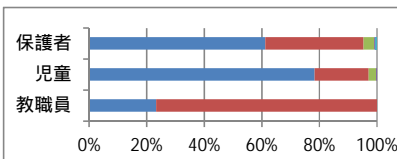
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



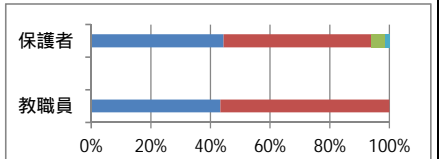
2 友達への思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。



3 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)

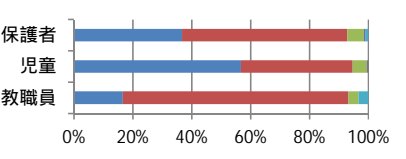


1学校全体で自尊感情を高める教育を推進し、児童生徒を尊重しているが、保護者はさらに期待している。すべての子どもたちの意思疎通を図っていく必要がある。2職員は、子どもたちのトラブルに絶えず直面するが、子どもたちは、トラブルを体験することで、友達と仲良くなることを学び、成長する。また、保護者は子どもたちの成長を感じ取られているようだ。さらに、思いやりの心を育てたい。3あいさつ、無言排除、時間を守る、家庭学習の習慣化などの小中連携して取り組んでいる。道徳の時間を年間35時間以上確保し、授業参観においても年間1回道徳の授業を実施している。さらに、家庭や地域社会との連携強化を図った指導を工夫し、保護者への啓発を図りたい。

確かな学力を育む教育の推進

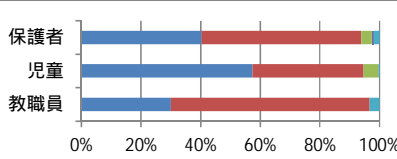
4 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。



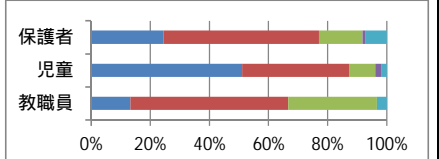
5 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



6 ICT活用

先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

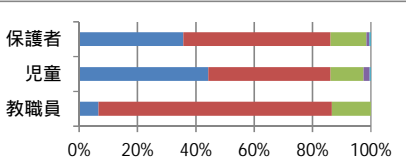


昨年と比べ、児童の意欲的な学習態度も、教師の授業力の向上のいずれにおいても、保護者、児童、教員の三者がおおむね好意的に評価している割合が、ともに約9割で同程度という傾向が見られる。ということは、教師側から見た評価と、児童や保護者からの評価がだいたい同じということであり、このことは、教師が授業中やや意欲の感じられない児童や、難しそうにしている児童が実際いることに気づいている可能性も考えられる。われわれ指導する立場としては、すべての児童が「意欲的」で、「わかる」「楽しい」授業を目指していくことが大切であることを痛感する。約1割の学習に意欲がやもてない児童や、わかる楽しい授業とまでは感じていない児童に対しては特に、個に応じた具体的な対応を日頃から心がけていく必要がある。その積み重ねにより、すべての児童が意欲を持って授業に参加し、分かる実感を持つことができるような授業を目指していきたい。教職員の「どちらかといえばそう思う」の増加に対して児童の「そう思う」の減少から見て、活用の促進と効果とに開きがある。学習の過程において、教材や資料の提示だけでなく、児童自身のスキルを上げていく取り組みへとつなげていくことで、わかった！できた！と実感できるようにしていきたい。

健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

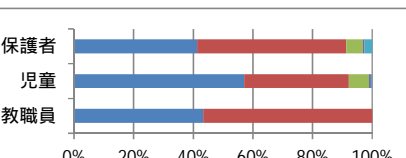


保護者・児童と、教職員の「そう思う」の数値の差(保護者・児童は高く、教職員は低い)を含め、全体的な傾向は昨年とあまり変化は見られない。今年度は震災後の心のケアから続く、基本的な生活習慣の見直しを行っている。特に「睡眠」については心身の不調の一番の原因となっており、教職員は大きな課題として捉えており、学校保健委員会でもテーマにし、小・中で連携しながら実施している。今後も家庭・地域と連携しながら改善に努めたい。

いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

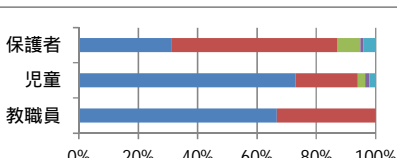
8 児童生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。



9 いじめや問題への対応

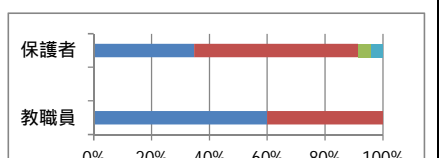
学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。



特別支援教育の推進

10 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



8保護者の回答で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を含めた数値が、昨年度の10%から、20%に増加している。日頃より児童への共感的理解を心がけることはもちろん、保護者の願いを的確にとらえ、通信や懇談会等を通じて児童の良さを発信していくことが必要であると考えられる。9保護者・児童ともに、対応についての評価がおよそ5割ずつ良くなっている。学年部、管理職への報告・相談が徹底されており、複数での迅速な対応ができていることによるものと思われる。各事案については、週に1度の教育相談朝会で職員全体で共通理解を図っている。10昨年に比べると、「思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合は保護者、教職員ともに増えているので、特別支援教育の推進は確実に進んでおり、支援体制も確立できているということが言えるだろう。特に教職員においては、「思う」「どちらかといえばそう思う」が100%になり、教職員自身の特別支援教育に対する意識が確実に高くなってきていると思われる。今後は保護者にその取り組みを伝えていく必要があるだろう。

子どもたちの身近な安全対策の充実		最適な学習環境の整備	
11 安全と事故防止 学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	12 施設・設備の安全管理 学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。		
保護者、児童で「そう思う」と答えた割合は昨年とほぼ同じだが、「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合が若干増加し、両者を合わせるとどちらも95%を超えている。教職員は100%であり、三者とも高い評価を得ている。これは、年3回の避難訓練や有事を想定した集団下校、1年と3年の交通教室など本校の取り組みが評価されているものと思われる。		12施設・設備の安全は、11よりもさらに高い評価を得ている。これは、新設校であるため施設や遊具が新しいことや、学校内で施設による事故が発生していないこと、毎月の安全点検、毎日の有志による遊具点検など職員の取り組みが高く評価されているものと思われる。ただ、机椅子などは分離の際に龍田小から持ってきたものであり、事故や怪我が起こらないように痛み具合を点検し、修理や交換をしていく必要があるものも出てきている。	

家庭・地域社会との連携強化			
13 教育方針・目標の理解 学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者や地域の方にわかりやすく示していると思いますか。	14 家庭や地域との連携協力 学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。		
13 ホームページや学校だより、学年・学級通信等を活用し、教育方針や教育目標や学校の取組等を知らせることに努めている。学校だより等を各自治会での閲覧等を通して地域に皆様にも見ていただくことで、さらに共通理解を進めていく。 14 自治協議会の総会等で、学校の教育方針や取組についてお知らせしたり、積極的に地域の行事に参加したりして、連携協力を進めている。今後も、災害避難訓練等の学校と地域との連携事業について、職員や保護者が一緒に参加するよう呼びかけるなど情報発信していく。			

本校の教育		
15 1 子どもは、誰に対しても「自分から、元気に、笑顔で」あいさつができていますか。	16 2 子どもは、家庭学習に進んで取り組むことができていると思いますか。	17 3 子どもは、「早寝・早起き・しっかり朝食」が実践できていると思いますか。
15 龍田校区小中学校共通実践項目の中に、あいさつ・家庭学習・生活習慣があるので、具体的な目標を決めて実践したことで、児童の評価は80パーセントを超えたと考える。今後も、あいさつラリーの取組などあいさつの励行が、一日の生活の中でも生きるようにクラス内での具体的な目標を児童が立て、実践し、評価していく必要がある。 16 約90%の児童が「大変よくできた」「できた」と答えている。教職員、保護者とも約80%の評価があった。日々の家庭学習への取組は定着してきている。ただし、学習時間や内容については個人差があり、学校の休み時間などに個別に対応している現状にある。今後も熊本市学力テストの分析を行う時間を設け、学校での取り組みと家庭での取り組みについて、これまで以上に各学年で対策を練る時間の確保も必要である。 17 PTA、家庭と連携することにより、保護者・児童・教職員の評価が約80%と児童の生活習慣の定着が図られた。児童の規則正しい生活リズムの定着を次年度も図りたい。継続して実践することで、児童の体力向上も図られたが、認め・ほめ・励ます活動を取り入れることにより、互いをよく観察し、よりよい人間関係が構築されることにつながった。		

来年度の具体的な取り組みについて

本校教育目標の3つに関してより具体的な方針を提示することができたことにより、児童・保護者・教職員ともに明確な目標をもとに連携して取り組んでいる。

学習面では、全員参加のわかる授業づくりを今後も進め、教材研究を続けていくとともに、学びノートを中心とした学力充実と支援が必要な状況の児童の生活習慣の確立と学習支援、そして個に応じた学習の更なる徹底を図っていく。

地域の声からは、児童のあいさつをほめていただくことが多い。さまざまな場面での校長講話等でも、「感謝の気持ちを自分からのあいさつで示そう」という呼びかけもあり、子どもたちのあいさつがさらによくなってきている。さらに、生徒指導部や児童会での取り組みに加え、PTAや幼保小中連携など地域の諸団体と連携を図り、更に基本的な生活習慣の定着を図っていく。

小中連携で4つの共通実践項目を設定し取り組んでいる。今後も家庭学習の充実を図りながら、個に応じたきめ細かな指導の工夫改善に努めたい。

体力向上として、年間指導計画を見直し体力づくり月間を設けたりして、楽しみながら児童の体力向上に取り組んだ結果、児童の体力面の向上が見られ、熊本市からも「躍進賞」をいただいた。今後も児童自ら運動に親しむような魅力的な取り組みで働きかけを行い、運動場や体育館の活用を図っていきたい。

学校関係者評価

自ら学び続ける子ども像をより具体的に示していくことで、保護者や地域と一緒に子どもたちの育成にしていきたい。

朝の早い時間から登校する子どもたちの様子を見ると、運動場で多くが遊んでおり、子どもたちが運動好きであることがわかる。

体力テストの結果が向上しているのはとてもよいことである。「立ち幅跳び」や「ボール投げ」、「長座体前屈」の数値を伸ばすことは、日頃の授業で改善が期待できる。熊本大学の学生を派遣し一緒になって取り組んでいったらどうか。夏の水泳学習にも支援する用意がある。

育成クラブに通ってくる子どもたちのあいさつがとてもよい。学校や学級のこと、先生たちのことをよく話してくれるので、学校が好きな様子がうかがえる。

子どもたちの安全面の確保は、地域全体の課題である。安心して通うことができるような通学路のために、自治会でも支えていきたい。

毎日の登下校で気になるのは、児童が慣れたきたのか、特に下校時に通学路以外の道を通っている。地域としてもしっかり見守りをして声かけをしていく。

田植えは、児童も先生も一生懸命取り組んでいるので、協力支援して下さっているJAの青壮年部のメンバーからも好評である。地域の一員として、学校に直接協力できる良い機会として、今後も力を入れていきたい。